

令和 2 年度
広島県瀬戸内高等学校推薦入学試験問題

国 語

(50 分)

..... 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験
番号

--

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

方言は日本語の宝だ。日本はセ^aマイ国土ながら、南北に長く伸びている。気候・風土が相当異なる。そこで培^{つちか}われた人間性や人間関係の取り方も相当差異がある。方言には、そうした風土の違いが色濃く染み込んでいるのだ。

方言で話されると、^①どこの方言でもその人の人柄が出ているような気がしてくる。体温が伝わってくる言葉なのである。個人としての体温というよりは、風土全体がからだの温もりとして伝わってくるというイメージだ。今時は共通語はテレビを通して十分身につけることができる。共通語が話せなくて困るということは、ほとんどない。いま必要なのは、むしろ方言の教育だ。《 》、生徒手帳にかつては「方言の使用を禁止する」という項目をケイサイ^bしていた地方もあるほどで、その方言撲滅^{ほくめつ}運動の成果もあつてか、全国で方言能力の急激な低下が見られる。

^②この衰退は深刻だ。現在八十代の方は、方言を使いこなすことが相当できる。五十代になると、その三分の一程度の方言能力しか有していない感じがする。これは、各地を訪れるたびに、自分と八十代の人を比較してどの程度の差があるか、と私が聞いた際の答えを参考にしている。二十代になると、方言能力は急速な低下傾向を見せる。関西の言葉のように、テレビで大きな勢力を持っている言葉は比較的^{すた}廃れていない。しかし、鹿児島弁などは、方言の代表選手のような魅力を持っているにもかかわらず、若い人は喋^{しゃべ}らなくなってきたのだ。^③これはま^{※1}ったく看過^{かんか}することのできない事態である。

言葉には本来、肌触りや温もりというものがある。^{※2}その言葉の語感に、意味が^c雰囲気として含まれているのだ。その土地固有のイントネーションもある。方言は一つの別言語だ。だから方言を話すためには、「方言モード」に身体をモードをチェンジさせる必要がある。いわゆる共通語を淡々と話す人を相手に自分だけが方言を話すというのは意外に難しいものだが、地元の友達や家族と電話で話すときには、すぐに^④ I に切り替わる。その切り替えは、人格の切り替えさえも感じさせるほどに^{鮮やか}である。

私が監修をしているNHK教育テレビの「にほんごであそぼ」という番組で、^{※3}宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を全国各地の方言でやってみて書き付けられたものだ。宮沢賢治のこの詩は、方言のきついものではない。しかし内容には岩手の厳しい風土が浸透している。それだけに、他の地方の方言に直してしまうとどうなるのか。^⑤冒険の要素もあつた。

結果は、驚くほどの成功であつた。宮沢賢治の真摯^{しんし}な祈りが、全国の方言でしっかりと表現されていた。南の鹿児島言葉でも、肌触りのある言葉とイントネーションで、この詩の一番肝心の核^{かく}となる感情はきっちり伝わってきた。では同じ作品かと言えば、そうでは

ない。違う作品に仕上がっている。これが方言の言語としてのすばらしさだ。^⑥どのようなテキストも、自分の色に染め上げてしまう。しかし、そのテキストの持つ生命力は失われない。

方言を話しているときに感じる懐かしさ、というものがある。身体全体が緩んで温かくなる感じだ。だから、方言でのコミュニケーションが衰退することによって、身体の冷えが進んでしまう。しかも、方言はある世代で衰退すると、自然に復活することは期待しにくい。

Ⅱ な方言教育を、学校やメディア、家庭で本格的に行う必要性があるのだ。それほどに切迫した状況なのである。

(齋藤 孝著 『コミュニケーション力』より)

※1 看過 — 大目に見て見逃すこと。

※2 語感 — その言葉から受ける感じ。言葉が与える印象、ニュアンス。

※3 宮沢賢治 — 主に大正から昭和初期にかけて活躍した、岩手県出身の詩人・童話作家。

※4 テキスト — ここでは文章のこと。

問一 { a } d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 《 》 に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア つまり イ むしろ ウ ところか エ だから

問三 [I] にあてはまる最も適当な語句を文章中から五字で抜き出して書きなさい。

問四 [II] にあてはまる最も適当な語句を次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 一方的 イ 意識的 ウ 本質的 エ 洗脳的

問五 — ① 「どこの方言でもその人の人柄が出ているような気がしてくる」とありますが、その理由として最も適当なものを次の

ア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 地方によって性格や人付き合いが異なり、それが方言にもあらわれるから。

イ 共通語はテレビを通して学ぶことができるが、方言は学ぶことができないから。

ウ 日本の中にはたくさんの方言が存在しており、懐かしさを感じるから。

エ かつては禁止されていた方言が、近年では重要視されているから。

問六 — ②「この衰退」とありますが、具体的にどのようなことですか。最も分かりやすく述べた語句を文章中から十字で抜き出して書きなさい。

問七 — ③「これ」の説明としてあてはまらないものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 関西弁はテレビでよく使われているために比較的有名な方言であること。

イ 二十代の人は五十代の人よりも方言を使いこなせていないこと。

ウ 全国的に方言を使うコミュニケーションが減少してきていること。

エ 方言の代表のような魅力あるものでも、若い人は使わなくなっていること。

問八 — ④「鮮やか」の文章中の意味として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 新鮮 イ 迅速 ウ 豊富 エ 明快

問九 — ⑤「冒険の要素もあった。」とありますが、筆者がこう考えたのはなぜですか。その理由を説明した次の文の(i)・(ii)にあてはまる語句を、文章中からそれぞれ八字で抜き出して書きなさい。

※「雨ニモマケズ」は(i)ではないが、(ii)を前提として書かれた詩であるため、他の方言に直すことで元々の作品が持つ独特のメッセージが伝わらなくなるかもしれないと考えたから。

問十 — ⑥「どのようなテキストも、自分の色に染め上げてしまう。」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア どのような文章であっても、その一番重要な箇所は方言を使わずに表現されているということ。

イ どのような文章であっても、その内容を表現するのに最も適した方言が必ず一つは存在するということ。

ウ どのような文章であっても、その方言の持つ印象によって言葉そのものの意味に影響を与えているということ。

エ どのような文章であっても、地元友達や家族といると方言を使って読んでしまうということ。

問十一 文章の内容と合致するものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 方言は現在テレビ以外ではあまり話されていないので、高齢者よりも若者が方言を使用できるように教育していくことが必要である。

イ 方言は話す相手によって使用するかどうかを見極めなければならぬので、方言を使った会話は重要なコミュニケーションだといえる。

ウ 方言はその土地や住人の特徴が反映され、同じ文章でも異なる印象を与える温かいものなので、方言を使用できるように教育を行うべきである。

エ 方言は肌触りや温もりを感じられる方が魅力的で使いやすいので、懐かしいけれど有名ではない方言の必要性が高まっている。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（私（こと葉）はスピーチライターとして、久美さんの指導を受けながら働いている。ある日、幼なじみの厚志君の妻である恵里ちゃんが病院に運ばれ、動揺している私に対して久美さんが自分の過去を語った。

中学生になって放送部に入った久美さんは、《 》出てみた全国中学生スピーチコンクールでいきなり優勝を果たした。アナウンサーのような話す仕事に携わりたい、^{なま}と思い始めた久美さんを、両親はオシaみなく応援してくれた。コンクールや文化祭に、久美さんの父の親友である今川幹事長も出向き、^{※1}たいしたもんだ、¹といつも褒めてくれた。そして、十四歳の久美さんと、若き日の今川のおじさんは、約束をしたのだ。

久美ちゃん、社会人になったら、おじさんのスピーチ原稿を書いてくれるかな。

スピーチ原稿を書くって？ それって、スピーチをする人が書くんでしょう？

まあ、それはそうだ。けど、政治家が全員、文才があるわけじゃない。世の中のできごとをみつめ、人々の心になり変わって、冷静に、客観的に、かつ感動的にスピーチの原稿を書いて、スピーチそのものを演出する「スピーチライター」っていう仕事があるんだよ。

日本にはあまりないけど、アメリカのようなスピーチ先進国では、大統領や企業の社長さんには、専属のスピーチライターがいるんだ。どうだ、久美ちゃん。君自身がスピーチをする人になってもいい。けれどもし、余裕があったら、おじさんのスピーチ原稿、書いてくれるかな？

① それが、久美さんと「スピーチライター」という職業との出会いだっただ。

「そうだったんだ」と、私はつぶやいた。

「今川のおじさんが、久美さんに教えてくれたんですね。スピーチライターのこと」

久美さんは微笑みながらうなずいた。

それから、中学生の久美さんは、必死にスピーチライターについて勉強をした。いまのようにインターネットが発達している時代じゃない。英語の本や雑誌をアメリカから取り寄せ、それを読むために英語の猛勉強をした。マーティン・ルーサー・キング牧師、ケネディ大統領、マハトマ・ガンジー……偉人たちの偉大なスピーチに触れ、胸を熱くした。

言葉は、ときとして、世の中を変える力を持つ。

十五歳の久美さんの胸に、真実の灯がともった。自分は政治家や宗教家にはなれないだろう。けれど、スピーチを書くことはできる。いつの日か、人の心を動かし、世界を変えるスピーチを書く。そう心に誓った。

そんな矢先、両親が逝った。

きようだいもなく、頼れる親族も近くにいない。久美さんは、ひとりぼっちになった。

両親が茶毘に付されるあいだ、久美さんはひとり、親族の集まる待合室を抜け出して、火葬場の煙突から細長く煙が上がるのをみつめ続けた。涙が滂沱と頬を伝う。声も出さずに、久美さんは泣いていた。

そのときだった。

久美ちゃん、とあたたかな声で呼びかける人がいる。振り向くと、今川のおじさんが立っていた。

おじさんは歩み寄ると、硬くこわばっていた久美さんの小さな体を何も言わずに抱きしめてくれた。ただただ、静かに、優しく。そして、ほんほんぽん、と三回、細い背中を叩いてくれた。幼子をあやすように。

父に、母に抱かれたようで、久美さんは、両親が死んでから、初めて声を放って泣いた。

泣いて泣いて、思う存分泣いて、ようやく涙が涸れたときに、背中をほんぽんと叩きながら、おじさんが言った。

なあ、久美ちゃん。困難に向かい合ったとき、もうだめだ、と思ったとき、想像してみるといい。

三時間後の君、i。二十四時間後の君、ii。二日後の君、iii。三日後の君、iv。

どうだい？ そんなに難しいことじゃないだろ？ だって人間は、そういうふうにできているんだ。

とまらない涙はない。乾かない涙もない。顔は下ばかり向いているわけにもいかない。歩き出すために足があるんだよ。

君のお父さんとお母さんが君に与えてくれた体を、大切に使いなさい。そして は、君自身が育てていくんだ。大らかに、あたたかく、正義感に満ちた に育ててやりなさい。

そして、成長してほしい。いつかおじさんのスピーチを書いてくれるようになるまで。

それまで、おじさんと久美ちゃん、どっちが大きく育つか、キョウソウだ。

いいね？ 久美ちゃん。

歩き出した三日後の君に、また会いにくるよ。

「あのときね、思ったの」

ほんの少し鼻声になって、久美さんが言った。

「ほんとうに弱っている人には、誰かがただそばにいて抱きしめるだけで、幾千の言葉の代わりになる。そして、ほんとうに歩き出そうとしている人には、誰かにかけてもらった言葉が何よりの励みになるんだな、って」

久美さんの話を聞きながら、私は、がまんしていた涙を抑えきれなくなった。②何度も指先で涙をぬぐいながら、ほんとうにそのとおりだ、と思った。

弱り切った厚志君を、心をこめて抱きしめてあげた久美さん。いまはもういない今川のおじさんに代わって、弟のような厚志君をただ抱きしめて励ました。ひと言の言葉もなしに。

いまは、久美さんの話が、言葉のひとつひとつが、あたたかな抱擁となって私をしっかりと包みこんでくれているようだった。幼い久美さんは、今川のおじさんの抱擁と言葉に、どんなに励まされたことだろう。

それから亡くなるまでずっと、おじさんは久美さんを支援し、アメリカ留学の際も後見人を買って出たそうだ。

③「私にとつてはお父さん以上にお父さんよ」と久美さんははてれくさそうに言った。その声は、かすかに震えていた。そうだったんだ。

久美さんもまた、私たち「家族」の一員だったんだ。

「誰にも言うまい、と思ってたんだけどね。これで、ふたり目。厚志君と、こと葉と」

久美さんは目を潤ませてそう言った。私は、涙をすすりながら、

「もっと早く言ってくれてもよかったのに」

文句を言った。

「だって恥ずかしいじゃない。子供の頃の、センチメンタルな話なんて」

「またまた、そういうふう突つ張るのがかわいくないんですよ。いいじゃないですか、私たち家族なんだから」

一瞬、久美さんは不思議そうな表情になった。けれどすぐに、ふふっと笑った。

「なるほどね。家族か。そういうもんかも」

「そういうもんかも、じゃなくて、そうなんです。おばあちゃんだって、久美さんのこと、一番上の孫娘だと思ってますよ。一番上が久美さんで、二番目が私で、三番目が恵里ちゃん」

「えっ、ほんと？」^{※4} 驟雨先生に？ それは光栄だなあ。でもまあ、『こと葉の姉』っていうのは、ちよつとアレだけど」

「なんですか、アレって？」

「だからアレよ」

「アレじゃわかんないよ」

にぎやかに言い合いながら、私たちはタクシー乗り場へと向かっていった。涙はもう、乾き始めていた。

※1 今川幹事長：厚志君の父で、衆議院議員。故人。

※2 荼毘に付される：死者が火葬されること。

※3 滂沱と：涙がとめどなく流れる様子。

※4 驟雨先生：私の祖母。歌人。

(原田 マハ著『本日は、お日柄もよく』より)

問一 〃 a 〃 d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 《 》 に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア さらに イ たまたま ウ まったく エ もちろん

問三 [i] 〃 [iv] にあてはまる語句として最も適当なものを次のア～オの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

ア 顔を上げている イ 涙は乾いている ウ 元気に笑っている

エ 歩き出している オ 涙がとまっている

問四 [] に共通してあてはまる語を、文章中から漢字一字で抜き出して書きなさい。

問五 — ① 「それ」とは、どのようなことを指していますか。文章中の語句を用いて、次の文の空欄にあてはまるように書き、説

明文を完成させなさい。

※今川のおじさんから、【二十五字以内】こと。

問六

——②「何度も指先で涙をぬぐいながら、ほんとうにそのとおりだ、と思った。」とありますが、「そのとおり」とはどのようなことを指していますか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 弱っている人に対しては、ただ静かに側で寄り添うことがその人の助けになるということ。

イ 弱っている人に対しては、昔自分が言われて助けになった言葉をかけるべきだということ。

ウ 弱っている人に対しては、言葉をつくして元気づけ、一緒に涙を流すのがよいということ。

エ 弱っている人に対しては、何も言葉をかけず、遠くから見守ることが大事だということ。

問七

——③「私にとってはお父さん以上にお父さんよ」とありますが、ここには久美さんの、何に対する感謝の気持ちが表われていますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 今川のおじさんが、厚志君よりも自分のことをかわいがってくれたことに対する感謝の気持ち。

イ 今川のおじさんが、自分のことを家族として受け入れてくれたことに対する感謝の気持ち。

ウ 今川のおじさんが、経済的にも精神的にも精神的にも支援し続けてくれたことに対する感謝の気持ち。

エ 今川のおじさんが、幼少の頃からずっと自分のことを褒めてくれたことに対する感謝の気持ち。

問八

文章中から、スピーチライターとして働くことを決意した久美さんの気持ちが端的に示されている一文を抜き出し、最初の五字を書きなさい。

問九

文章の内容と合致するものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 久美さんは、最初はアナウンサーになりたいと考えていたが、途中で向いていないことが分かったので仕方なくスピーチライターになった。

イ 両親が亡くなった直後、きょうだいもなく頼れる親族も近くにいなかった久美さんは、将来のことを考える心の余裕もな

く、ただ泣くことしかできなかった。

ウ 久美さんの過去の話を聞いた私は、ますますスピーチライターという仕事に魅力を感じ、これからもっといい原稿が書け

るように頑張ろうと思った。

エ 私から「家族なんだから」と言われた久美さんは、職場の後輩である私に「家族」と言われることが気に入らず、「ちよっ

とアレだけ」と言ってやんわり否定した。

問五

エ 旅に出ると普段以上に家族のことを気にかけるようになる。
『徒然草』の作者名を漢字で書きなさい。